

聖書と祈り会  
毎週水曜日 10:30 ~  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

# 日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2017 (平成29年) 7. 9

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

第一日曜日  
教会学校 9:00 ~  
主日第一礼拝 9:00 ~  
主日第二礼拝 10:30 ~  
その他の日曜日  
教会学校 9:00 ~  
聖書を読む会 9:00 ~  
主日礼拝 10:30 ~

## 「結びの勧告」(ヤコブの手紙「十六 終」)

牧師 松谷 祐二

### ヤコブの手紙 第五章二節〜二〇節

わたしの兄弟たち、何よりもまず、誓いを立ててはなりません。天や地を指して、あるいは、そのほかどんな誓い方によってであろうと。裁きを受けたいようにするために、あなたがたは「然り」は「然り」とし、「否」は「否」としなさい。

あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してください。また、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。エリヤは、わたしたちと同じような人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年半にわたって地上に雨が降りませんでした。しかし、再び祈ったところ、天から雨が降り、地は実をみのらせました。

わたしの兄弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から救い出し、多くの罪を覆うことになる、知るべきです。(新共同訳聖書)

ヤコブの手紙も最後になりました。いくつかの主題が書き連ねられています。

「誓いを立ててはなりません」というのは、「常に言行一致した、主の前で真実な生き方をするように」という意味の勧告です。古代の人々は、宗教的な誓いの言葉を生活の中で頻繁に用いました。「天にかけて誓う。生きておられる主にかけて誓う。わたしの言うことは絶対だ、本当だ」というような誓いです。しかし、そう言いながら二

枚舌を使うということもありふれたことでした。舌で犯す罪の問題について以前にも警告してきたヤコブは、ここでもう一度、空疎な誓いなど必要としないような、真実な言葉と生き方を勧めるのです。

苦しんでいる人は祈りを。喜んでいる人は賛歌を。逆境のときも順境のときも、主を呼び、主を讃え、主に結ばれてあるように、との勧めです。病気の人が、特に症状が重く、自分の心身が思うようにならない人でも、(おそらく人を介して)教会の「長老」——今日ならば牧師や役員でしょうか——を呼び、祈ってもらうように。病気になるなら何もできない、ということはないのです。

古代では一般に病気というものを、人間を超えた何らかの力によるもの——たとえば悪魔や悪霊の類のしわざか、あるいは本人の犯した罪への懲らしめとして、神からくだされたもの——と考えましたから、病が癒えるためには祈ることが重要でした。今日、病気が悪魔のしわざだと信じなければならぬわけはありませんが、健やかな体が保たれ、回復されるのは神の恵みによる、ということ、見失われてはならないことです。病のときは「信仰に基づく祈り」、ひたすら主に信頼し、主に助けを求める真実な祈りをささげる(またはささげてもらう)べきときです。

すべての病が「罪を犯したから」ではありません。しかし、もしわたしたちが病をきっかけに自身を省みて罪に気づき、良心に痛みを覚えるならば、わたしたちには、罪の告白と赦しが何より必要です。やはり祈る(または祈ってもらう、祈り合う)べきときです。

祈りは魔法の呪文ではありません。自分で祈ろうと教会の長老に祈ってもらうと、言葉自体が何か力を発揮するものではありません。「正しい人の祈りは、大きな力があり…」とありますが、この「正しい人」とは「信仰者」というほどの意味で、ヤコブは「特別な聖人の祈りは効き目がある」と言いたいわけではありません。普通の信仰者でいいのです。昔の偉大な預言者エリヤを例に出しながらも、「わたしたちと同じような人間でしたが」

と紹介されているのは、そのためです。

普通の信者が、ただ「信仰に基づく」祈りをささげる。普通の信者たちが、「信仰に基づいて」祈り合う。場合によっては罪を告白しあうことも伴いながら、身体の癒し、罪の赦しのために祈り合う。その祈りの言葉自体が、魔法の呪文のように力を発揮するのではない。力を発揮されるのは、ひとえに、祈りに熱心に耳を傾け、それに応えてくださる主です。「主がその人を起き上がらせてくださいます」。「主が赦してくださいませ」。「主にいやしていただくために」。

最後にヤコブは、「真理から迷い出た者」、イエス・キリストの教えから外れた生き方に脱線してしまった信仰者の仲間を、もう一度主に立ち帰らせることの重要性、尊さを知ってほしい、と言います。それは魂を(その人の肉体も精神もすべて、丸ごと)、最後の審判における永遠の死、神に裁かれて滅びる運命から救うこと。数多の罪があっても、神の目から覆い、赦していただけるようにすること。非常に大きなことなのだ、と。

わたしたちは皆、罪を犯します。キリスト者もまた罪を犯し、迷い出ます。しかし、イエス・キリストが十字架についてくださったのだから、わたしたちは立ち帰ることができる。立ち帰るならば神は赦してくださいませ。それが、わたしたちにとっての救いです。信仰者の仲間は、迷い出した人にとそのことを思い出させ、連れ戻すお役に立つことができます。そのために、主はわたしたちを孤独にしておかず、信仰者の仲間たちの群れの中に置かれたのです。

これでヤコブの手紙は終わりです。手紙の結びらしくない唐突な終わり方にも見えますが、ここに集められた主題を並べてみると、こんなメッセージになるのではないのでしょうか。「アーメン(真実に)。あなたがたが、祈りによって主に結ばれ、健やかにされ、罪赦されて平安であるように。互いに祈り合い、迷い出した仲間も連れ戻し、皆で一緒に永遠の命にあずかるように。」神と主イエス・キリスト(自身)のわたしたちへのご配慮が、手紙を通して見えてくるような気がします。

### 「呼び続けて下さったイエス様」

入交 麻里

私は名古屋市内で生まれ、中学高校を南山学園というカトリックの女子校で過ごしました。家庭はキリスト教ではありませんでしたが、家族ぐるみで仲よくなったご家庭が熱心なプロテスタントの一家だった縁で日曜学校や礼拝に通うようになりました。

そのときは何となく通っているだけで信仰を深めることもなく、受験などの忙しさにかまけて行かなくなっていました。でもこの経験は、イエス様や教会やクリスチャンの方を身近な存在にしてくれました。



思えば北海道の大学に進学するために親元を遠く離れたところから、私は心に渴きを感じていたように思います。それは社会人になっても常にあり、信仰を持てば救われるだろうかと考えたりもしました。

それが決定的になったのは、慣れない子育てのなかで自分の時間もなくなり、思い通りに進められず、自分の弱さを思い知ったことです。依り頼む絶対的な存在が欲しいと、キリスト教に関する本を読んだり、いくつかの教会の礼拝にも出てみました。ちょうど息子の幼稚園をどうしようかと考えていた時期にも重なり、神様がいらっしゃるという絶対的な安心感を息子にも持つて欲しいと思

い、附属幼稚園のあるこの麻布南部坂教会に通うようになりました。それから三年たち、ペンテコステ礼拝において洗礼を授けていただく恵みを頂きました。息子は幼稚園と日曜学校に通い3年目になります。

聖書を読む会と第一礼拝、主日礼拝の録音、沢山のお祈り、励まし、信仰の友、と神様は御言葉だけでなく沢山の人を用いて気づかぬうちから私を呼び続けてくださいました。このお恵みに心から感謝します。弱く罪深い私です。これからも主と共に人生を歩んでいきたいと思ひます。

### 『導かれて』

渡邊 文香

キリスト教とは無縁の生活を送ってきました。

教会に通うようになったのは教会附属の幼稚園に子供が入園できた事と、教会と信者の距離が近い所が仏教の家で育った私には斬新で魅力的に感じたことがきっかけです。

信者ではない私が礼拝に行くことは勇気がいることでしたが同じ幼稚園の同級生のお母様もいた事が本当にとても心強かったです。



毎週日曜日に子供は日曜学校、私は聖書を学ぶ会に出席し主日礼拝も親子で集うようになりました。

聖書も昔の歴史、世界史のような印象から読み進み聖書の解き明かしを聞くうちに聖書は私たちにに向けた言葉だと認識が変わって来ると同時に礼拝での松谷先生の説教を聞きながら聖書の登場人物に自分に重ね合わせ、その時の自分に合う御言葉や祈りが耳に残り心を打たれ受洗の意思を強く持つようになりました。

洗礼を受けるまで驚くほどスムーズに準備が進み神様の導きを感じ、毎日イエス様のお陰で子供と共に『天の父』と呼びかけ祈り語りかけることができる事を心から感謝しています。

クリスチャンらしい日常生活が送れる様に意識して生きていきたいと思ひます。

温かく優しく迎え入れてくださった兄弟姉妹に感謝します。

今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

### 報 告

\*六月四日(日) 聖霊降臨日礼拝で洗礼を受けられた方

入交麻里さん(主日第一礼拝の中で洗礼を執り行いました)

渡邊文香さん、渡邊一香ちゃん(幼児洗礼)

主の豊かな祝福をお祈りいたします。

### 《各部報告 六月度》

#### 成人会

日時 六月十八日 主日礼拝および会堂清掃後  
場所 教会堂会議室  
出席者 八名  
開会祈祷 菊池才知子姉  
内 容 エレミア書 十一章から十七章まで  
神との契約をないがしろにしているイスラエルの民に神の怒りの言葉がエレミアに伝えられるが、偽預言者の甘い発言を採用し、エレミアを疎んじる民衆、神と民衆の板挟みに苦悩するエレミアとそれに対する神の叱咤激励を感じた。四節ずつ全員で輪読し、松谷牧師の解説を聞き、各自、感想交換の活発なディスカッションをした。

◇次会は、十八〜二十四章  
次回司会…七月十六日 司会は佐藤忠昭兄  
開会祈祷 黙祷

#### 婦人会

日時 六月二十五日 主日礼拝後  
場所 会堂会議室  
出席者 十名  
開会祈祷 菊池才知子姉  
閉会祈祷 各自、小祈祷  
内 容 聖書研究「コヘレトの言葉」第四、五章  
全員で輪読した後、松谷牧師の解説を聞いた。

今回は「コヘレトの言葉」第六章、第七章  
次回愛餐会の開会と、閉会の祈祷担当者を協議 開会祈祷 納姉、閉会祈祷 当日晴天の場合 原姉、雨天の場合は菊池姉が担当  
祈祷担当者の当番表を作成する。